

華やか 企業優先

京 滋
国会議員

3日発足した第2次安倍改造内閣や谷垣禎一元総裁(衆院京都0区)の幹事長起用など自民党執行部人事に対し、京滋国会議員もさまざまな反応を示した。与党側は「政権運営の安定につながり、華やかさもある」と歓迎する一方、野党側は「国民に反対が根強い集団的自衛権の行使が具体化し、企業優先政策による経済格差が進む」と批判を強めた。

「挙党態勢内閣」。組閣

の顔ぶれを見た田中英之衆院議員(京都4区)はこう評し、谷垣幹事長の起用も「石破茂前幹事長と同じように地方の支援者から信頼され、知名度も高い」と来春の統一地方選に向け大きな力になると期待した。

大岡敏孝衆院議員(滋賀

1区)は「農業や医療・労働など岩盤規制の改革に取り組む『改革実行内閣』にしてほしい」と要望し、滋賀県出身の有村治子女性活

躍担当相には「人口減少問題などの党内議論に関わっており、具体的な政策を進めてくれる」と話した。

また、公明党の竹内譲衆院議員(比例近畿)も「女性の活躍を表に出した『女性活躍・円満内閣』だ」と太鼓判を押した。

これに対し、野党・民主党の泉健太衆院議員(比例近畿)は自民党内でリベラル派とされる谷垣氏の幹事長起用に触れ、「中国や韓

国と対立する外交安保政策や経済格差の問題に気づき、右派的政策を修正する『中堅内閣』に見える。本当に修正するのか未知数」と冷やかな反応を見せた。

共産党の倉林明子参院議員(京都選挙区)は「消費税増税や原発再稼働、集団的自衛権の行使容認などを進める『ますます暴走する内閣』と批判。「暴走を止めるには秋の福島、沖縄の原知事選で、野党側が候補を統一するなどして勝つことがかぎになる」と野党連携の重要性も訴えた。

(日山正紀)